

校舎最大限に活用

県の博物館構想 検討委初会合

再編統合で閉校した
県立静岡南高（静岡市
駿河区）の校舎を改修
して県が整備する自然
系博物館の基本構想を
話し合う検討委員会の
初会合が18日、現地で
開かれた。県は、校舎
の特性を最大限に生か
した展示空間の提供な
ど、六つのコンセプト
からなる改修イメージ
を示した。

各教室を化石、植物、

昆虫といった標本・資
料の展示室や収蔵室に
し、視聴覚室や実験室
は来館者の研修場所と
して活用する。県産材
を積極的に取り入れる
ほか、駿河湾を一望で
きるコミュニケーション
ホールの配置など静
岡ならではの演出も工
夫する。

整備方針によると、
本年度中に改修工事を
開始する。2014年

夏にまず、約29万点の
標本・資料が保管され
ている「県自然学習資
料センター」（同市清
水区）を移転させる。
その後、数年かけて調
査研究や教育機能を段
階的に充実させ、博物
館法の法定施設への移
行を目指す。

検討委は博物館移行
を見据えた提言を本年
度中にまとめる。同日
は校舎を見学し、委員



校舎内を回り、県担当者から改修計画の説明を受ける委員ら—18日午後、静岡市駿河区

からは「多様な部屋や
空間があるのはメリッ
トだが、規模が大きい
だけに管理運営計画を
しっかりとまとめるべ
き」「学芸員の早期確
保を「近くにある大学
の学生たちが日常的に
訪れる仕組みが必要」
などの意見があった。